

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17時



第2回ふるさと交流会 in 一宮

日程：11月12日（土）11：00～15：00

場所：com-café 三八屋

主催：ずっと... 被災者支援チーム

共催：一宮生活協同組合、特定非営利活動法人 志民連いちのみや、愛知県被災者支援センター

協力：一宮市、一宮市社会福祉協議会

避難者参加者数：11世帯 29名

2回目となった今回は広く一宮市以外の方にも呼びかけましたので、狭い喫茶店の中に大勢の避難者の参加で一杯になり、子どもは2階と1階の間を走り回ってそれは賑やかな交流会となりました。一宮市内からは2世帯が参加され、内1世帯は初参加でした。参加者の何人かが、「話がしたいので来ました」と自己紹介をされたのは、最近の交流会の傾向を示すもので、段々と信頼関係が築かれているのがよく判ります。

福島県名古屋事務所・司法書士・弁護士の皆さんが最近の避難者を取り巻く状況や支援の中身を説明し、説明の後は避難者の皆さんから真剣にお話を聞いていました。こういう姿はこの頃確実に増えてきました。

今回は一宮生活協同組合が合流され、特に食事と託児の協力が好評でした。このように交流と支援の輪が広がったことで、避難者を取り巻く孤立や孤独を乗り越える普段通りのお付き合いができてきた、と言えるのではないのでしょうか。



「あいち防災フェスタ

防災＆ボランティアフォーラム」参加報告

日程：11月13日（日）10：30～16：00

場所：愛・地球博記念公園

「みんなで学べる！体験できる！楽しいイベント盛りだくさん!!」のあいち防災フェスタが開催されました。主催者を代表して大村愛知県知事の挨拶でフェスタのスタート。その後は、防災体験ラリーや防災関連展示・実演などで、来るべき東海・東南海地震の防災対策の充実強化を推進するイベントが行われました。また子どもを対象にした「スイートプリキュア♪ショー」があり、お子さん連れの家族が多数参加された賑やかなフェスタでした。

愛知県被災者支援センターとしても、「東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや」とともに展示コーナーを設け、県内各地に避難されている方々を対象に開催している、交流会や各種イベント等の活動内容をパネルや写真で展示、紹介し、多くの県民の皆さんに知って頂きました。

また、この機会を利用して暖房器具類の寄贈をお願いするチラシを配布し、多くの県民の皆さんの善意を期待しています。

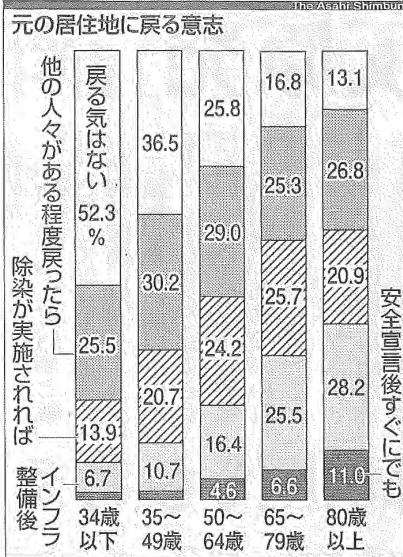


原発事故避難住民アンケート

4人に1人「戻る気はない」

福島第一原発事故で住民が避難している福島県双葉郡8町村の全世帯を対象に実施されたアンケートで、回答者の4人に1人が「元の居住地に戻る気はない」と答えた。

福島大学の災害復興研究 難先にも送られる広報紙に所が町村の協力を得て8月 同封して2万8184世帯から今年まで実施した。避に調査票を送り、48%にあ



たる1万3463世帯から回答を得た。

元の居住地がどのような状態になれば戻るか、との問いには「他の人々がある程度戻ったら」が27・8%、「除染が実施されれば」が22・7%。一方「戻る気はない」が26・9%で、特に34歳までの回答者で、特に34歳までの回答者

「帰れないなら言うて」

避難している相当数の人たちが、もとの居住地に戻る気をつてている。政府は福島県内に「長期帰還困難地域」を指定する方向で検討しているが、避難住民からは「帰れないのは分かっている」「放射線量が低い」と言われても帰る気はない」との声が聞かれる。原発から約6キロの双葉町に自宅がある富沢功一さん(82)は「帰れないなら帰れないとはっきり言うてもら

では52・3%を占めた。原発が立地する大熊町、双葉町と隣の富岡町で「戻る気はない」が3割を超えた。

戻る意思のある人に「どれぐらいの期間なら待てるか」を聞くと、3年以内との答えが7割以上に達した。今後の生活上の困難を三つ選ぶ質問では、「避難の期間がわからない」が57・8%と最も多かった。調査にあたった丹波史紀准教授は「時間が長引くほど住民は帰らぬことがはっきりした」と語った。

って、土地を買い上げてほしい。自分が住むところは自分で決めたい。郡山市内の仮設住宅で暮らしているが、避難所などを転々と「いつ戻れるのか」期待しながら仮住まいを続けるのは、もうこの限り。線量が比較的低いとされる住民の表情もさえない。大熊町の矢口修さん(36)の自宅は第一原発から約5・5キロ。妻、3人の息子と暮らしていた。「放射線量が低い場所から帰ることができると言われても、すぐには帰らないだろう。少し位置がずれただけで線量が高くなるような土地で、安心して生活することはできない」と話す。

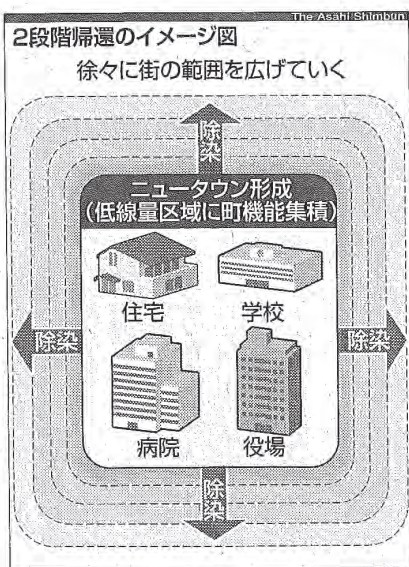
2011年11月 9日 朝日新聞 朝刊 (朝日新聞社の許諾を得て転載しています) (紙面の都合上、レイアウトを変更しています)

20キロ圏に帰還困難地域

政権指定方針 復興住宅提供を検討

野田政権は東京電力福島第一原発から半径20キロ圏内の警戒区域内で、放射線量が高い地域を「長期帰還困難地域」とする方向で調整に入った。放射線量が低い地域に生活拠点を移すにつれて、将来の帰還に備える「2段階帰還」への支援も検討する。近く警戒区域内で線量を測定し、年内をめどにしている原発の冷温停止

止状態の達成にあわせて該当地域を公表する考えだ。長期帰還困難地域では立ち入り禁止の措置が長く続く。対象住民には国や自治体による土地の借り上げや買い上げ、復興公営住宅の提供などを検討する。10月中旬の文部科学省の調査によると、警戒区域内で避難の目安とされる年間被曝量20ミリシーベルト以上



が困難な地域を決める。線量が低くてもインフラ復旧のめどが立たず、社会生活が難しいところも含める。福島第一原発が立地する福島県大熊町は、放射線量が低いところに公共施設を集めたニュータウンをつくり、将来の全面帰還をめざす「2段階帰還」を町の復興構想案にすでに盛り込んでいる。政権はこうした試みを支援する方針だ。

(関根慎一)

2011年11月 9日 朝日新聞 朝刊 (朝日新聞社の許諾を得て転載しています) (紙面の都合上、レイアウトを変更しています)

原子力・放射線安全確保 一般的質問

(文部科学省 ホームページより)

Q1 放射線(放射能)とはどのようなものですか?

A1

「放射線」を出す物質を「放射性物質」といい、放射線を出す能力を「放射能」といいます。「放射線」にはアルファ線、ベータ線、ガンマ線の代表的な3種類の他、エックス線、中性子線、重粒子線などいろいろな種類があります。放射線のそれぞれの性質を利用して医療、工業、学術研究などに利用されています。

Q2 放射線(放射能)に使われている単位について教えてください

A2

放射線	線量当量	シーベルト(Sv)	生物が放射線を受けたときの影響を表す単位
	吸収線量	グレイ(Gy)	放射線が物質に当たったときその物質に吸収されるエネルギーを表す単位
放射能	ベクレル(Bq)		放射性物質が1秒間に1回壊変すること

Q3 私たちは普段どれくらいの放射線をあびているのですか?

A3

私たちの身の回りにはごくわずかですが天然の放射性物質があります。これらの物質から常に放射線を浴びています。またこのような放射線の他、宇宙から地球に降り注いでいる宇宙線から被ばくしています。私たちが1年間に被ばくする線量は、地域によって差がありますが年間約2.4ミリシーベルトです。

また、病院での診断などからも、人工の放射線を浴びています。その量は次のとおりです。

なお、自然放射線も人工放射線も人体への影響は全く同じです。

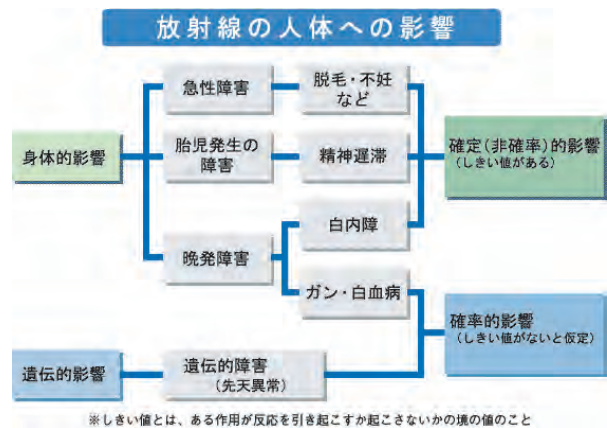
外部被ばく (ミリシーベルト)	宇宙線から	0.38
	大地から	0.48
内部被ばく (ミリシーベルト)	食物などから	0.24
	空気中のラドン等の吸入から	1.3
計		2.4

種 類	調 査	1件あたりの 実効線量(mSV)	国民一人あたりの 実効線量(mSV)
一般X線診断	1986	1.27	1.47
X線CT	1989	8.3	0.8
集団検診(胃)	1991	0.6	0.04
(胸部)	1991	0.05	0.01
歯科X線診断	1989	0.03	0.023
核医学診断	1982	4.2	0.03
胸部CT		6.9	世界平均 24

Q4 放射線は私たちの身体に影響があるのですか?

A4

人体が放射線をあびると人体を構成する正常細胞をこわしたり、傷つけたりします。線量が低い場合は、身体に備わった修復作用や回復機能により修復されますが、修復されなかった場合には放射線障害が発生するといわれています。



子育てつどいの広場 in 瑞穂区

食事やお茶などしながら、子育てについての情報交換会を開催いたします! また、子育て支援情報などについても提供させていただきますので、お気軽に遊びに来てください。

日 時: 12月18日(日) 10:30～14:00

場 所: ボラみみより情報ステーション

※ 切: 12月15日(木)

申 込: 必要事項をお電話またはFAX、Eメールにて愛知県被災者支援センターまでお申し込みください。

問合せ: 愛知県被災者支援センター

(月曜から金曜 10:00～17:00)

TEL: 052-954-6722

FAX: 052-954-6993

E-mail: mousikomi@aichi-shien.net

(詳細は同封のチラシをご確認ください)

救急医療情報センターを利用する前に

・なるべく次の手順でご利用ください。

- 1) かかりつけの医師に連絡してください。
- 2) かかりつけ医師のいない方、またはかかりつけ医師が不在のときは、近くの休日（夜間）診療所や当番医に連絡してください。
- 3) それでも無理なときは、近くの救急医療情報センター（下表）に電話してください。

※救急医療情報センターに電話をされる電話料金の軽減を図るために、名古屋市外局番を除く県下14地区に地域別電話番号を設けております。下記管轄区域の地域別電話番号に電話されますと、自動的に救急医療情報センターにつながります。

※夜間等は多少時間がかかる場合がありますが、電話を切らずにそのままお待ちください。

救急医療情報センターを利用する際の注意事項

- 1) 救急医療情報センターに電話されるときは、メモとエンピツをご用意のうえ、住所または現在居られる場所、患者さんの氏名、年齢、性別、電話番号をお話の上、具体的な症状あるいは、けがの程度をオペレーターにお話ください。
- 2) 救急医療情報センターでは、最寄りの医療機関を検索し、医療機関の名称・電話番号をお知らせいたします。また、医療機関の大体の場所もお知らせいたします。
- 3) 連絡を受けたら、患者さんまたは家族から

医療機関に電話し、症状やけがの程度をお話のうえ出来るだけ早く受診してください。医療機関への到着が遅くなる場合や、何らかの都合で行かない場合も必ず電話をしてください。

小児の病気で

医療機関に受診するか迷ったら

けいれんが止まらない・意識が無い・呼吸が苦しい など保護者の目から見て、明らかに緊急を要する急病の場合は迷わずに「119 番」をご利用ください。

夜間の子どもの急病時、病院に行ったほうが良いか判断に迷ったら以下をご利用ください。

小児救急電話相談

【相談日時】

土曜日・日曜日・祝日・年末年始

午後 7 時から午後 11 時まで

※ 看護師（難しい事例は小児科医）による救急電話相談を行っています。

【相談電話番号】

#8000（短縮番号）

又は 052-263-9909（短縮番号が使えない時）

社団法人日本小児科学会

こどもの救急 ホームページアドレス

<http://kodomo-qq.jp/>

愛知県小児科医会 ホームページアドレス

<http://aichi-pediatric-ass.jp/>

救急医療情報センター（地域別電話番号）（<http://www.qq.pref.aichi.jp/>）

名称	問合せ先	管轄区域
名古屋	052-263-1133	名古屋市 東海市(上野局) 清須市 あま市 大治町
豊橋	0532-63-1133	豊橋市 豊川市 蒲郡市
岡崎	0564-21-1133	岡崎市 幸田町
一宮	0586-72-1133	一宮市 稲沢市 岩倉市 江南市 大口町 扶桑町
瀬戸	0561-82-1133	瀬戸市 尾張旭市 日進市 みよし市 長久手町 東郷町
半田	0569-28-1133	半田市 常滑市 阿久比町 武豊町 美浜町 南知多町
春日井	0568-81-1133	春日井市 犬山市 小牧市 北名古屋市 豊山町
津島	0567-26-1133	津島市 愛西市 弥富市 蟹江町 飛鳥村
刈谷	0566-36-1133	刈谷市 知立市 安城市 高浜市 碧南市
豊田	0565-34-1133	豊田市
西尾	0563-54-1133	西尾市
尾張横須賀	0562-33-1133	東海市(上野局を除く) 大府市 知多市 東浦町 豊明市
新城	0536-22-1133	新城市
設楽	0536-62-1133	設楽町 東栄町 豊根村
田原	0531-23-1133	田原市